

# 抑制力ポチャの産地化に向けて

## 農業革新支援スタッフ【野菜】

カボチャは、比較的栽培に手間がかからないことに加え、市場からは秋冬の国産カボチャの供給が望まれています。そこで、JA全農やまなしとJA北富士では今年から抑制作型の試作を行うこととなりました。岳麓試験地では、JAから栽培について相談を受け、栽培計画を立てるとともに、地域に適した品種選定を行うため、うどんこ病耐性のある品種や短節間品種など5品種の試験栽培を行いました。



出荷目合わせ会の様子



現地試験ほ場の生育状況

現地での栽培で予想を上回る収量が得られたことから、生産意欲が高まり、農業委員会や若手農業者にも呼びかけを行い有望品種の導入や生産拡大を図っていく予定です。また、「富士山野菜生産者協議会」の中で栽培を広げていき、新たな特産品となるよう支援をしていきます。

# 水田の有効活用による飼料自給率向上の取り組み

## 農業革新支援スタッフ【畜産】

全国の自給飼料の作付面積は、平成19年まで減少傾向で推移していましたが、配合飼料の価格高騰を踏まえ、飼料増産に向けた取り組みにより近年、飼料用米や稲発酵粗飼料（稲WCS）の面積拡大が図られています。

一方で、県内における自給飼料の作付面積は、離農や高齢化に伴い横ばい傾向を示しています。今後も安定して飼料を確保するためには、飼料用米や稲WCS等新規需要米をはじめ、稲わらも含めて県産飼料資源としての活用と耕種農家との連携が重要になると考えられます。

農業革新支援センターでは、関係機関や団体と耕畜連携をより一層推進していくとともに、県産飼料基盤に立脚した畜産経営の取り組みを支援していきます。



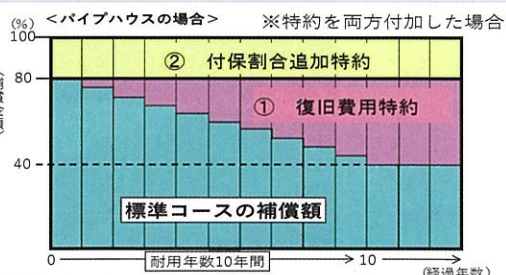
水田を有効活用した飼料用米及び稲わら生産と畜産農家への供給を推進

# 山梨県農業共済組合より

## ハウス栽培農家のみならず、パワーアップした園芸施設共済に加入しましょう！

園芸施設共済は、台風や洪水、大雪などの自然災害を幅広く補償する国の制度です。標準コースは掛金の半分を国が負担します。

### 特約で新築時の資産価値まで補償！



- ① 復旧費用特約 → 耐用年数を過ぎたハウスでも新築時の資産価値の80%まで補償！
- ② 付保割合追加特約 → 新築時の価値までさらに上乗せ補償！ ※この特約には国の掛金補助はありません

### 小さな被害でも補償！

損害額が1万円を超える被害から補償できる特約もあります

### 集団加入で割引に！

JAの生産部会等で一斉加入を行い、構成者の加入率が8割を超えると、掛金が割引になります



お問合せはお近くのNOSAIへ！

本所	055-228-4711	北部支所	0551-23-1111
中央支所	0553-22-5056	富士支所	0554-45-6611
南アルプス支所	055-282-0443		

安心のネットワーク  
**NOSAI** 山梨県農業共済組合

# 山梨県普及センターだより

編集 & 発行：山梨県農政部農業技術課

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL:055-223-1619 FAX:055-223-1622

http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/

E-mail:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No. 51

令和2年12月21日発行

# 果樹園で取り組む4パーミル・イニシアチブ

## 地球温暖化の抑制に貢献

日本の平均気温は過去100年で1.24℃上昇し、世界よりも早いペースで温暖化が進んでいます。果樹栽培においても「巨峰」、「ピオーネ」などの黒系品種の着色不良などが問題となっており、この対応策として、ブドウでは高温でも着色の良い「ブラックキング」や「甲斐のくろまる」などの新品種の育成や、着色向上技術の開発を行ってきました。

このように温暖化に適応していく対策も重要ですが、温暖化の進行を抑制することは、持続的な果樹生産だけではなく、地球環境を守っていく上でも重要であり、そのためには、二酸化炭素など温室効果ガスの排出抑制は世界的にも重要な課題となっています。

4パーミル・イニシアチブは、土壌の炭素を年間4パーミル（パーミルとは1000分1を示す単位）、すなわち0.4パーセント増加させることができれば、人類が毎年大気中に排出している二酸化炭素に相当する炭素を土壌に封じ込めることができるという考え方です。2015年にパリで行われたCOP21の際にフランス政府の主導で始まった国際的な取り組みです。山梨県は本年4月に日本の自治体で初めて参画しました。

## 新たなブランドとしてPR

県では、4パーミル・イニシアチブを実現するため、ブドウやモモなどの剪定枝に着目しました。

剪定枝は、一般的に畑で焼却されるか、チップ化して畑に施用するなどの方法で処理されていますが、焼却すると二酸化炭素が大気中に放出されてしまいます。そこで、剪定枝に含まれる炭素を長期間、土の中に閉じ込める方法として、煙の発生が少なく、効率的に炭ができる専用の炭化器を使って剪定枝を炭にして、土壌に還元する新たな取り組みを始めました。炭はほとんど分解せず、半永久的に炭素を閉じ込めることができるため、大気中の二酸化炭素濃度の上昇を低減することができます。また、多くの果樹園で取り組まれている草生栽培や有機物の施用も炭素の貯留に貢献しています。果樹王国の特徴を活かした4パーミル・イニシアチブを推進するため、本年度から各産地での実証試験を行うなど普及に向けた取組をはじめ、今後も様々な場面で取り組みを紹介していきます。

「果樹園発の温暖化の抑制」は農業分野で温暖化の抑制に貢献する新たな取り組みであり、これまでにない新たな価値を創造します。今後、こうした果物を「環境に優しい新たな農産物」としてブランド化し積極的にPRしていくことにしています。

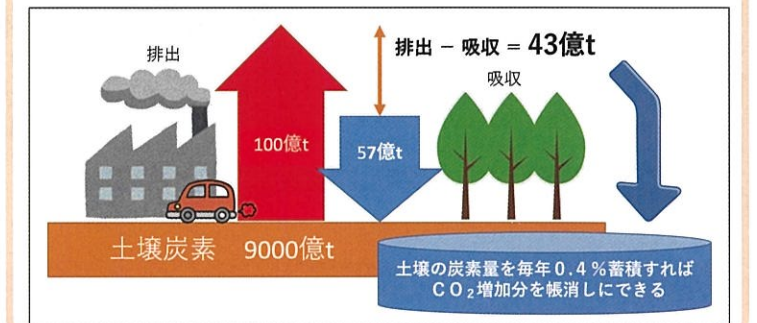
ブランド化によって、新たな販路の拡大とともに、農家や消費者の皆様にも山梨の果樹栽培が温暖化の抑制に貢献していることを広く知っていただくことで、取組が拡大していくことを期待しています。

なお、取り組みの詳細は、You Tubeチャンネルで紹介していますので、「山梨 4パーミル」で検索してご覧ください。

## 4パーミルイニシアチブとは

$$4 \text{ パーミル} = 4/1000 = 0.4\% = 4\text{‰}$$

世界の土壌の表層（30~40cm）の炭素量を年間0.4%の増加させれば、人間の経済活動によって増加する大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を実質ゼロにすることができるという考え方に基づく国際的な取り組み



## 果樹の剪定枝を炭化し、土壌に貯留して温暖化の抑制に寄与



## 中北地域普及センター

### モモの県オリジナル品種「夢みずき」の安定生産に向けた取り組み

中北地域普及センターの管内には、早場から遅場まで県内でも有数のモモ産地が形成されています。

「夢みずき」は、県が育成したオリジナル品種で、平成27年度に苗木の供給が始まりました。大玉で食味が優れていることから、産地で導入が進んでいます。

しかし、「夢みずき」は、変形果が出やすいことや、着色が先行して未熟な果実が収穫されやすいなどの課題があり、適正な摘果や適期収穫の徹底が求められています。

そこで、普及センターでは、「夢みずき」の生産安定



収穫期の「夢みずき」

や品質向上に向けてJAと協力して韮崎市に調査ほ場を設置し、一般的な仕立て方法である開心自然形仕立てについて、栽培管理状況や果実品質を確認しています。

今年のように長雨が続く中でも着色や糖度が比較的良好であり、高品質果実が確認できました。

今後も関係機関と連携し、栽培特性や果実品質を把握するなかで、「夢みずき」の安定生産と栽培定着に向けた支援を行っていきます。



栽培管理講習会

## 峡東地域普及センター

### ブドウにおけるカラス被害軽減に向けた取り組み

本県の果樹産地を代表する峡東地域において、一部地域ではブドウの収穫期におけるカラス被害が問題となっています。

一般的なカラス対策としては忌避資材や防鳥ネットが使われていますが、忌避資材は馴れによる効果の低減、防鳥ネットは毎年設置する必要があるため労力とコストがかかります。

そこで普及センターでは、県が開発した黒色極細ワイヤを活用した鳥害防止技術について、現地実証ほを設置して効果確認を行いました。結果は収穫期を通してカラスの被害を完全に防ぐことができ、防鳥ネットより省力的に設置できることが確認されました。

今後は、被害の多い地域を中心に技術の紹介および導入を進め、ブドウの生産安定に向けて普及に取り組んでいきます。



現地実証ほの様子



設置作業の様子

## 峡南地域普及センター

### 地域活性化に向けた都市農村交流活動支援

早川町三里地区では、現在も地域で栽培されている大粒の大豆を使って、昭和50年頃まで集落単位で味噌造りをしてきました。

当センターでは、平成30年度からNPO早川エコファームや早川集落住民とともに味噌造り復活に向けて取り組み、令和元年度には大豆の播種から枝豆・大豆の収穫、石窯の修繕、味噌造り等の一連の工程をイベント「早川集落伝統の味噌造り復活祭」として実現しました。

2回目となる今年度は、新型コロナウイルス感染防止に配慮しつつ規模や回数を縮小し開催しています。

当センターでは、昨年度から引き続き、大豆の施肥や農薬散布等の栽培管理や、サル害対策として電気柵の設置・保守について助言・指導を行っており、今年度もイベントに必要な生産量が確保されています。

イベント参加者からは、地域住民と一緒に歴史ある行事に参加することで地域への愛着が深まったとの声が聞かれ、地域住民は参加者の喜ぶ様子を見ることで、意欲向上にも繋がっています。

来年2月には味噌造りイベントを開催することにしており、当センターでは地域のイベントとして定着・発展していけるよう取組を支援していきます。



枝豆収穫祭(10/25)の様子



大豆収穫祭(11/22)の様子

## 富士・東部地域普及センター

### 富士北麓地域における新しい品目「パプリカ」の生産振興

富士山野菜生産者協議会では、富士北麓地域の立地条件を活かした新品目としてパプリカの生産振興に取り組んでいます。平成30年から試作を始め、昨年度からは大型トンネルを活用した栽培試験を行っています。

大型トンネルは山梨県総合農業技術センターで開発され、初期投資を削減でき、傾斜地等、地形を選ばず設置が可能な施設です。この大型トンネルをパプリカ栽培に活用することで、台風などの気象災害を軽減できるとともに、露地栽培に比べ約1～1.5ヶ月程度収穫期を拡大することができ、収量も向上します。

普及センターでは、総合農業技術センターと連携し、大型トンネルの設置やICTを活用したトンネル内データの活用、また、赤系黄系などの品種比較の検討などを支援しています。今年は5月下旬に定植し、8月から12月まで収穫することができました。収穫したパプリカは地元のスーパーで販売され、消費者から非常に好評を得ています。

今後は、病害虫防除や仕立て方法を検討し、『富士山やさい「パプリカ」』の普及定着を支援していきます。



パプリカ圃場(富士吉田市)